

●発行●三重県小中学校長会 津市桜橋 2-142 三重県教育文化会館内 TL 059-227-7011 E-mail info@mie-kochokai.com ●編集●三重県小中学校長会 広報委員会 ●印刷●光出版印刷株式会社 松阪市久保町 1885-1 TL 0598-29-1234



ボランティア活動

合唱 コンクール

んき」「てんぼう」。四月、

本校に赴任

゙゙まなび」「かつやく」「つながり」「げ

いの場を提供いただくよう保護者や地

れているところです。 盤にした「まちづくり協議会」の立ち スクールへの移行だけでなく、桑名型 ら引継ぎを受けていました。 地域とのつながりが強いとはあまり言 の小中一貫教育の展開、 上げなど、独自の取組が進められてお こうした中、 学校と地域の関係が改めて注目さ 課題の一つであると、 本校の実態は 小学校区を基 前校長か

学校生活のいろいろな場面で、こうし 教職員や生徒たちに投げかけました。 た実感ができれば、きっと「楽しい学 した際、私はこの五つのキーワードを が、そこにあると考えたからです 方、桑名市では、コミュニティ

学校との距離も確実に近くなっていま 極的な生徒たちの活躍により、 動き出しているかなと感じますが、 活動など、五つのキーワードを合い言 なさんの声が聞かれ、 教科の授業や学活、 と感じています。 異口同音に 「楽しい明正中学校」が少しず 学校内でも二〇一九年度バージ と関わった生徒たちや地域の 「こんな機会を探して 生徒会活動や部 なるほどな 地域と 積 7

歩一歩です。 これからも「楽しい学校」をめざし、

なさんとがふれあう機会を増やしたい

たことの一つが『ボランティアのスス

私から具体的に提案し

生徒たちと地域や市民のみ

と考えました。

生徒たちに活躍と出会

子どもたちが活躍する

桑名市立明正中学校

校長

谷 岡 伸

悟

た。 など、 地域の認知症声かけ訓練への参加、 社会福祉協議会主催「福祉の秋パビリ 域のみなさんにお願いを続けたとこ の児童虐待防止フォーラムのスタッフ ろ、宅老所での手芸教室の開催、 オン」での小学生車イス体験の手伝い、 たくさんのお話をいただきま 地区 市

全体に働きかけていくことにした。

ことを日々学んでいるところである。

今目的課題の克服に向けて

三つの柱をもとにして

校長谷まゆみ鳥羽市立弘道小学校



ある日、集会の場で「校長先生の 仕事は何だと思いますか。」と問う てみた。すると「僕らの命を守るこ とです。」という明快な答えが返っ てきた。安全・安心の教育信条が子 でもたちに伝わっていることの嬉し さと、その一方で「命を育てる」教 育実践についてはどうなのだろうか と、自身の課題を見い出すきっかけ にもなった。そこで、本校の学校教 育目標である『よく学ぶ子・思いや りのある子・体をきたえる子』とい う三つの柱を日々の教育活動にしっ かりと位置づけ、機能するよう学校

「よく学ぶ子」・・・自尊感情を高めるという課題に対し、「できないとあきらめてしまう自分」を「やれとあきらめてしまう自分」を「やれとあきらめてしまう自分」を「やれたで、家庭学習の習慣化・読書活動的に、家庭学習の習慣化・読書活動の推進・教師の授業力向上に力を入れる。自分の伸びを実感する子が出れる。自分の伸びを実感する子が出てきたら、しめたもの。とにかく、鍛えることや追い込むことを試みている。

「体をきたえる子」・・・本校は、「体をきたえる子」・・・本校は、一・三畑。十分以内でその場所は、一・三畑。十分以内でその場所は、一・三畑。十分以内でその場所は、一・三畑。十分以内でその場所は、一・三畑。十分以内でその場所は、一・三畑。十分以内でその場所は、一・三畑。十分以内でその場所は、一・三畑。十分以内でその場所は、一・三畑。十分以内でその場所は、一・三畑。十分以内でその場所は、一・三畑。十分以内でその場所は、一・三畑。十分以内でその場所は、一、本では、大平洋に面した海抜六田地点にから着手した。外で遊客がよりでは、大平洋に面した海抜っても、大平洋に面した海抜六田地点に対している。

子どもたちの歩む未来は、コンピュータ社会が一層進み、AIとのピュータ社会が一層進み、AIとの共存は必至である。私は進化の裏に共存は必至である。不は進化の裏に共存は必至である。不は進化の裏に共存は必至である。

鉛筆を動かし、辞書で調べ、自分 で経験し、確かめ体得していく地道 で経験し、確かめ体得していく地道 で経験し、確かめ体得していく地道 で経験し、確かめ体得していく地道 のに出会わせたいと思うのだ。 自分の「命」を守り育てる力を養い、 自分の「命」を守り育てる力を養い、 自分の「命」を守り育てる力を養い、 自分の「命」を守り育てる力を表い、 自分の「命」を守り育てる力を表い、 自分の「命」を守り育てる力を表い、 自分の「命」を守り育てる力を表い、

にすれば、お互い支え合い挫折かきるだろう。人とのかかわりを大切れ、知恵を働かせれば危険回避もでれ、知恵を働かせれば危険回避もで

救う力になれるだろう。 ら。体が元気であれば、自分も人もら這い上がる力に変えていけるだろ

おいたれるだろう
おいたれるだろう
で、職員が『チーム弘道』として日々
をの実践に繋げてくれる。そのことに
で、職員が『チーム弘道』として日々
で、職員が『チーム弘道』として日々
で、職員が『チーム弘道』として日々
で、職員が『チーム弘道』として日々
とが、毎月の職員会議でアイディア
きかに取組を提案してくれる。そし
とが、毎月の職員会議でアイディア
きかに取組を提案してくれる。そし
とが、私の大きな役割なのである。

大切に教師も生徒も基本を

鈴鹿市立千代崎中学校



、 新学習指導要領の完全実施が目前、 一 本校の今日的課題

とは私たちの使命であることは言う学び」実現のための授業改善が言われ続けてきました。生徒に、変化のれ続けてきました。生徒に、変化のの数年は「主体的・対話的で深いこの数年は「主体的・対話的で深いとなってきました。移行期間として

人も 本交よ、主走めだろ までもありません。

本校は、生徒数五百七十名、全十七学級の比較的大きな学校です。十七学級の比較的大きな学校です。いわゆるミドルリーダー世代が少ない職員構成の典型と言えます。いわゆるミドルリーダー世代が少ない職員構成の典型と言えます。人は、若い先生が多いことだと思っています。若い先生がことだと思っています。それは、若い大生が多いことだと思っています。それは、若い大生が多いことだと思っています。それは、生徒数五百七十名、全学校行事や部活動で、ぐいぐい生徒学校行事や部活動で、ぐいぐい生徒がある。

しかし、どうしても気になることであります。それは、授業です。講教型であったりが、まだまだ多く見いれます。授業改善に向け、教科研られます。授業改善に向け、教科研られます。とが忘れられているような気がしてなりません。

日的課題であると思います。今こそ教師も生徒も基礎基本に立

二 あらためて基本の重視

教師の仕事は「教科指導と生徒指導」「教科指導の基本は教材研究であり、生徒指導の基本は生徒理解である」。こんなことは、今さら分かある」。こんなことは、今さら分かり切ったことだと思います。しかし、○○教育で溢れる時代だからこそ若い教職員には流行に流されることない教職員には流行に流されることない

回教職員に話をする機会を設けて てもらいたい。そんな思いから月 く、しっかりとした基本の力を付け

思うからです。 も、教材解釈のない授業・場当たり 教育にも対応できる教師になれると 深い学び」を実現でき、どんな○○ 力を付けてこそ「主体的・対話的で て授業をコーディネートできる授業 とを伝えたい。生徒の意見に反応し に力を付けることなど、できないこ 的な発問や適当な板書の授業で生徒 どんなにICTが使いこなせて

てこそ授業も上達することを実感し 徒理解に努め、生徒との関係を築い 柱ではなく、表裏一体の一本の太柱 てほしいと思います。 であることも伝えたい。日頃から牛 また、教科指導と生徒指導は二本

SST の 取組 「聴く」「話す」 力を付ける

の自尊感情の向上は必要不可欠と考 おいても学力向上においても、 て示されたことから、学級づくりに 生徒の自己肯定感の低さが課題とし 況調査の生徒質問紙調査において でいます。当時の全国学力・学習状 レーニング)の授業研究に取り組ん いて、SST(ソーシャルスキルト 學館大学の渡邉先生にご指導いただ 本校では、平成二十九年度から皇

ながっていくと考えるからです。 つながり、それが学力の向上にもつ 学習の基盤となる言語能力の向上に スキルを向上させることは、全ての こと「聴く」ことに重点を置いて進 え、取組を始めました。 めています。「話す」スキル「聴く」 本校では、このSSTを「話す」

おわりに

くりを続けてほしいと思います。 けていく、基本を大切にした授業づ 怠らず、しっかりとした授業力を付 授業に出会ってほしいと思います。 できる限り多くの授業を見て、良い 開授業が行われます。教職員には、 そして、自らも日々の教材研究を 一年の間には様々な研究授業や公

学校・保育所・地域に 感覚あふれる



区は、 省の人権教育研究推進事業として、 子ども・保護者・地域の現状から 二小一中で構成される阿山中学校 昨年度より二年間、 文部科学

や、部落問題をはじめ様々な人権問 どもたちの姿から強みと弱みが出さ 題に対する大人の決めつけや偏見が しい生活を送っている姿もあること 子どもたちの生きづらさにも影響し れ、さらに、家庭の課題を背景に厳 合推進地域事業」を進めています。 第一回三校合同研修会では、

話し合われました。 人権教育カリキュラムの作成

さない校区にあって、いかに部落差 問い直しました。「被差別部落を有 ラムの作成」に取り組みました。 別を許さない子どもを育てるか」を として九年間の「人権教育カリキュ のもとにある子」を視点児童・生徒 ていくために「教育的に不利な環境 姿」とし、現状からその姿につなげ あらゆる差別や偏見を見抜き、なか 軸に、中学校卒業時の「めざす子ど 小中学校における人権教育の取組を まとともに差別をなくす行動をする も像」を「部落問題をはじめとする このような実態を受け、校区の

分づくり」「地域づくり」を三つの を図りながら、「なかまづくり」「自 どもの進路保障を見据えた小中連携 統的な指導を協議し、一人一人の子 像」を描き、人権教育の進め方や系 小中三校で、同じ「めざす子ども

> 柱に据えて人権教育を推進するもの としました。

県からの委託を受け、「人権教育総

家庭・地域との連携

ているのではないかといったことも 三校長は、家庭や地域に先ずこの事 携」は大きな課題だと考えています。 づくり」「保小中の連携」等があり するための学習」「日常的ななかま ますが、中でも「家庭・地域との連 容には、「個別的な人権問題を解決 スを求め、PTAや地域の様々な組 業にともに関わっていただくスタン この事業におけるその他の研究内

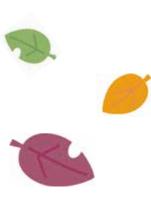
う」と協力を仰ぎました。 あふれる学校・保育所・地域にしよ 織の会議において「ともに人権感覚

うにする等の活動を行いました。ま 動のまとめの掲示物も作成していた うにすることや、 講演会での部落問題に関わる話につ 設に向けて取組を始めました。教育 だきました。 グループに保護者や地域の方に参画 落差別解消への意見を出し合えるよ 権に特化した活動を行う専門部の開 た、この事業の研究発表に向けて活 いただき、生徒と意見交換できるよ PTAでは、子どものくらし・人 地区懇談会で共有を図り、部 全校人権集会の各

地区市民センター等八カ所に掲示さ 生徒がポスターを作り、 視化と啓発のため、月一回ペースで 地域へは、学校での教育活動の可 公民館や各

> せてもらいに行っています。 せていただく予定です。 露し、好評を得ました。さらに、地 たオリジナルのペープサート劇を披 ちに個性のすばらしさをテーマにし 地域の各組織に、中学生が主体的に ループ討議に中学生も何人か参画さ 域同研の事業として行う研修会のグ た結果、夏祭りで就学前の子どもた 力を発揮できる場の提供をお願いし

組にしていくことが学校の大きな使 こと。このような状況を真摯に受け もっと協働するべきであったという 命だと感じています。 解決に向けて家庭・地域とともに いうこと。また、あらゆる人権課題 きれていなかったからではないかと 甘え、学校が部落差別解消に向かい た。前述の地域の実態は、「被差別 私たちの中に気付きが生まれまし 部落を有さない」校区であることに こうして事業を推進するなかで、 この度の活動を持続可能な取



第11回全連小秋田大会報告

全連小秋田大会 (全体会)

志摩市立東海小学校 校長 坂 下

吏



取組を共有し、逞しく生き抜くた から始まった。災害からの教訓や を一層感じる大会となった。 めに必要な力を育むことの大切さ により亡くなられた方々への黙祷 秋田県は「教育立県あきた」を 秋田大会開会式は、台風十九号

ら引き継がれてきた主題であり、 育成を目指す小学校教育の推進 間性豊かな社会を築く 日本人の は、平成二十五年度の三重大会か がら成果を上げてきている。 家庭や地域社会からの理解を得な 探求型授業」等の取組が重ねられ を発する子どもを育成する秋田の 進められている。そして、「『問い』 目指し、ふるさと秋田の未来を創 大会主題「新たな知を拓き 人 世界に羽ばたく人材の育成が

> ることが確認された。 ながら、考えを広げ、深めていく」 科会協議においては、「可視化し 望をもった大会にするために、分 を総括し、新たな大会主題への展 る。そこで、これまでの研究成果 ために有効な思考ツールを活用す

明があった。 代の初等中等教育の在り方や学校 における働き方改革等について説 文部科学省講話では、新しい時

ることの重要性を強く感じた。 教育活動を行うことができるよう をどのように配分するかを決断す を重視し、重要な資源である時間 て、子どもたちの成長のために何 の道程は大変厳しいが、学校とし になることである。実現に向けて は、子どもたちに対して効果的な 学校における働き方改革の目的

を掲げ、明るい社会を創造する人 皆さんから、子どもたちが、ふる セージをいただいた。 材になってほしいとの熱いメッ さとの温もりに包まれながら、志 田県出身の三名のシンポジストの 二日目のシンポジウムでは、秋

明確な学校経営ビジョンを示すと として、リーダーシップを発揮し、 一日間の研修を通して、学校長

秋田大会をもって最終年度とな

進めていくことへの責任の大きさ について実感することができた。 ともに、働きやすい職場づくりを



第五分科会に参加して 小秋田大会

鈴鹿市立天名小学校 校長 安 藤 貞 博



研究課題を「豊かな人間性を育む 会「豊かな人間性」に参加した。 研究領域Ⅱ教育課程の第五分科

> し、研究の視点を「豊かな心を育 カリキュラム・マネジメント」と 社会を創る人権教育の推進」とす む道徳教育の推進」と「よりよい る二本の研究発表を受け、グルー ノ協議を行った。

時間確保のためにカリキュラム・ 進、教育内容の改善・充実、家庭 シップが必要であることが確認さ 校長の高い見識と理念・リーダー 善、地域コーディネーターの配属 意識の高まりを感じるようになっ や地域の学校教育への関心や参画 より、学校全体での道徳教育の推 の取組等が報告された。これらに を目指した授業改善、 員の協働体制の確立、教員研修の 地域での道徳教育の目標や計画の 育の目標の明確化と共有のための れた教育課程のイメージや道徳教 であった。その中で、社会に開か の実現と校長の役割」という発表 マネジメントの一層の工夫や改 たとのことである。課題としては、 充実と主体的・対話的で深い学び た道徳教育の推進のために、教職 イメージ図の作成、学校・家庭・ 小学校「社会に開かれた教育課程 一本目は、香川県三木町立田中 家庭や地域と連携・協働し 「道徳の日」

であった。三つの視点として、① 推進と校長の在り方」という発表 立小学校「共生の心を育む教育の 二本目は、宮城県気仙沼市立月

実態調査の分析・考察と教育課程 共生の心を育む人権教育に関する 機関との連携・協働が示された。 な学級経営、③家庭・地域・関係 の編成・改善、②受容的・共感的

すべき役割と指導性を再認識する 理解・把握する取組を推進するこ ことができ、有意義な時間となっ と等が重要であると報告された。 悩みに対して、客観的・多面的に れること、児童一人一人の不安や 接的な体験活動を積極的に取り入 と、地域とのつながりの中で、直 を生かせる機会を適切に設けるこ 認め合い協力するとともに、自己 中で日常的に児童が互いの良さを 発表後の協議では、 その取組の中では、教育活動の



第70回全日中群馬大会報告

四日市市立三重平中学校 校長 淺 Ш 由 子



参加しました。 中学校長会研究協議会群馬大会に 十月に前橋市で行われた全日本

ける働き方改革と教育の情報化が 学省説明がありました。学校にお 説明の中心でしたが、Society5.0 房審議官矢野和彦氏による文部科 強調されていました。 して、ICT環境整備の重要性を 時代にふさわしい仕組みづくりと 二十四日の開会式後は、大臣官

株」や「三つの汗」等のキャッチ フレーズを生徒と教職員が共有し 市立第二中学校伊藤校長の「自分 学校を目ざして」は、島根県出雲 協議題「明日も行きたいと思える 七つの提言がなされました。第二 導部から調査研究報告書を通して けての提言」では、全日中生徒指 「いじめ問題による自殺根絶に向 その後の全体協議会第一協議題

> 践発表でした。 て学校経営を進めているという実

発に意見交換が行われました。 トの進め方や郷土の特色を生かし 後の協議では、キャリアパスポー キャリア教育の実践でした。その 学』を柱に据えた教育活動全体を 教育目標の達成に向かっていると 沿って生徒と教職員がともに学校 通した組織的・計画的な進路指導 学校畑口校長の「教育活動全体を ア教育と進路指導の充実」がテー の発表は、地域学習を核に据えた 通じた基礎的・汎用的能力の育成」 久住中学校渡邊校長の「『竹田郷土 の充実」の発表は、「六つの柱」に マでした。熊本県芦北町立田浦中 たキャリア教育の取組について活 いう実践でした。大分県竹田市立 会的・職業的自立に向けたキャリ 午後参加した第五分科会は「社

す時間となりました。 があり、自己の生き方を見つめ直 のススメ」を演題とする記念講演 家の横山秀夫氏による「自己点検 団によるアトラクションの後、作 学校ギターマンドリン部及び合唱 二十五日は、伊勢崎市立第三中

舞われる中での開催でしたが、 台風や大雨による災害に見

5

た二日間でした。 営にぜひ役立てていきたいと感じ 堂に会しての研究協議会は大変章 義深いことであり、今後の学校経 八〇〇名を超える中学校長が一



南伊勢町立南勢中学校 校長 後 藤 武

彦



方々がみえる中、全体会から場所 を移しての分科会開催となりまし 台風等の影響で、欠席される

分科会の運営については、 研究

は、「『竹田郷土学』を柱に据えた、

会は、キャリア教育が大きなテー 数の減少があげられていました。 の課題として人口減少に伴う生徒 というスタイルでした。第五分科 時間が三十分、研究討議が三十分 発表が二本あり、それぞれの発表 の研究発表でした。共通する地域 マとなっており、共に九州の学校

う取組を行っているそうです。 どが管外の出身であり、異動のサ 学校教育目標を言うことができる すべての教室に掲示し、全生徒が 校長の強いリーダーシップでし 中で最も印象に残っているのは、 ネートをし、常に携帯させるとい あることから、「○○中授業スタ また、若い教職員が多く、ほとん Pの中の「校長ブログ」を毎日更 推進したり、啓発活動として、H 験を味わえるような生徒会活動を ようにしていたり、生徒が成功体 た。具体的には、学校教育目標を 校長の役割の発表でした。発表の アと進路指導の充実を図る上での 進路指導の充実」と題し、キャリ 動全体を通した組織的・計画的な 用それぞれ作成し、職員用はラミ イル」というものを職員用・生徒 イクルがとても早いという課題が 新していたりしているそうです。 熊本県の中学校では、「教育活

> 的でした。 果とともに、様々な取組を通して、 が郷土学を進めるきっかけになっ 用的能力の育成」と題し、郷土の にもつながったという報告が印象 教職員の意識が変わり、 取組を実践した結果、生徒への成 のよさを学び、自尊感情を高める たそうです。そして、生徒が地元 性化を図る必要を強く感じたこと した。子どもが減少し、地域の活 したキャリア教育の取組の発表で 特色を生かし、家庭や地域と連携 人材育成

とでした。 ていくことが肝要であるというこ をキャリア教育の視点で再構築し のではなく、学校の教育活動全体 は、 分科会全体を通して感じたこと キャリア教育を単独で考える



特別寄稿 二重県市町教育長会



会長 中 田

雅

喜



夢を自分の言葉で語るため、不断 に学び、考え、様々な困難を乗り 全・安心な環境のもとで、自らの しいと願っています。 越えながら、一歩一歩を進めてほ **未来を担う子どもたちには、安**

い悲しみと同時に憤りを覚えま 込まれる事故や事件が相次ぎまし 事件が起こり、子どもたちが巻き 生命が奪われたことに対して、深 の園児死傷事故や川崎市での殺傷 りました。五月には、 亡するという痛ましい事件が起こ もが、両親からの虐待によって死 しかしながら、平成三十一年一 未来を担う子どもたちの尊い 野田市で小学校四年生の子ど 大津市で

す。

ろです。 援体制の再構築を進めているとこ 全・安心を確保するため、学校支 協働した今後の取組について考え んなでどう守るか」をテーマに、 催しました。「子どもの安全をみ 見守りボランティア研修会」を開 市声かけプロジェクト」の取組の 原因等を分析し、未然に防ぐた ることができました。子どもの安 学校・家庭・地域と関係機関等が 始めた「~守ろう大切な命~松阪 めの方策を立てなければなりませ ん。松阪市では、令和元年五月に 貫として、同六月に「子どもの このような事故や事件の背景や

り組んでいくことが求められてい こうした課題に対して、果敢に取 たちをめぐる状況や課題は、ます ます複雑化・多様化しております。 また、教育を取り巻く社会情勢 大きく変化しており、 子ども

も大切にされなければならないこ とと考えております。 変わらない価値のあるものが存在 が変化しようとも、時代を超えて する心など、いつの時代において 柔軟に対応しながらも、豊かな人 します。社会情勢の大きな変化に、 教育においては、どんなに社会 人権を尊重する心、自然を愛 正義感や公正さを重んじる

せん。 改革を進めていかなければなりま きていくために、これまで大切に 変化の激しいこれからの社会を生 において、自己実現を図りながら、 してきたことを継承しつつ、教育 子どもたちが、それぞれの将来

いているところです。 性を生かし、子どもたちに必要な の多様な人材が、それぞれの専門 プを発揮していただき、学校内外 資質・能力を確実に育んでいただ 校長先生方には、リーダーシッ

念いたします。 益々のご発展と皆様のご活躍を祈 めていきたいと考えております。 支援し、地に足を着けた取組を進 の熱い思いから始まる教育改革を 最後になりましたが、 市町等教育委員会は、学校現場 本会の

母の生き方から学んだこと 名張市立桔梗が丘東小学校

西澤

祐 子



うに、教育現場を取り巻く環境の あっても変わらない、変えてはい を私に実感させてくれたのが、 ことですが、一方でいつの時代で 沿って実践していくことは大事な 変化に対応し、その時代の流れに 変化に主体的に向き合える子ども 変わろうとしている今、学校教育 教育を取り巻く社会情勢が大きく の教師としての生き方でした。 たちの育成が求められています。 けないものもあります。このこと に求められることも多く、社会の 「不易流行」という言葉が示すよ グローバル化や技術革新など、

るしく変わる時代の中、教育に携 わってきました。そんな母が、今 戦後の厳しい時代を経て、めまぐ 年までの三十八年間、小学校の教 師として教壇に立っていました。 母は、昭和二十四年から六十二

> 歳でこの世を去りました。 年四月、私が新任の校長としてス のを見届けるかのように、 タートした矢先、入学式が終わる

学校教育について学んでおけばよ 葉を子どもにかけていたのだろう」 業をしていたのだろう」「どんな言 厳しかったけれど、深い愛情で包 いになりました。 かった」という思いで胸がいっぱ べるとともに、「母からもっと小 と、在りし日の母の姿を思い浮か けました。そして、「母はどんな授 の教師としての生き方に感銘を受 んでくれていた」と聞かされ、 ださった教え子の方から「先生は、 母の訃報を聞き、弔問に来てく

思っています ずいているのかをしっかり把握 どもが何に喜びを感じ、何につま もしっかりと刻み、現場の先生方 もにかかわる」ということを忘れ ばなりません。「愛情をもって子ど ばならないことが山積しています にも折に触れて伝えていきたいと 師としての生き方を私自身の心に 子どもに寄り添ってきた、母の教 厳しさの中にも深い愛情をもって ず、継承していかねばなりません。 自問自答しながら実践していかね きているのか、ということを常に が、私たち教師は、一人一人の子 し、子どもに寄り添った指導がで 今、学校現場では、取り組まね

「ジジ」と「ムク」

津市立豊里中学校 駒 田 育 史



絶対に人の前では物を食べません。 部屋の隅っこから動こうとしませ とも萎縮しきっていて尾を垂れ に過ごさせるようにしました。 ために、庭で放し飼いにして好き んでした。いろいろ試しましたが、 ほとんど同時期に家にやってきま した。家にやってきた頃は、 また、あまりにも怯えるために、 人と一緒に過ごすことを怖がる 本当に少しずつ、人から逃げ 一匹

した。どちらも保護された犬で、 以前、 私は犬を二匹飼っていま か?

作を学ぶそうです。動物と人間を 餌が与えられることで同じ行動動 とを学んだ気がします。 ジで眠るようになりました。 ることに必死な様子が薄れてきて そんな二匹の犬でしたが、少しず と褒めることが多くなりました。 結果的には、叱るのではなく自然 年後くらいからは、家の中のゲー 私は、この犬からたくさんのこ 動物は、

のではないでしょうか? 次もこうしようという意欲が湧く も知れませんが、 同じにしては、お叱りを受けるか ところが、学校で子どもたちを 人も褒められて、

ていくということはないでしょう いる子どもが、褒められ一層伸び 機会は多かったことでしょう。 少なく、反対に注意され叱られる ろから叱られ続けてきたのではな 見ていると、いつも決まった生徒 が注意を受けているような気がし スパイラルに陥っていってしまう。 いでしょうか? 褒められる機会は 人に気に入られる行動)を知って 方で、褒められるポイント(大 だから、どんどん褒められない そんな子どもは、小さなこ

ていくことでしょう。 け叱られ続ければ、 もしも私が、毎日注意ばかり受 萎縮し屈折し

令和元年7月30日(火)

手です。 師は、厳しいようでやはり褒め上 難しい年齢ですが、指導上手な教 中学生ともなると褒めることが

第56回三重県小学校長教育研究大会

ドの横で亡くなっていました。 う一匹は、朝起きた時に、妻のベッ 来てから八年以上長生きし、一匹 い思い出です。 は、病院で亡くなりましたが、 哀しいですが、 最終的には、二匹とも我が家に 今振り返るとい



開会行事

記念講演(岸川政之様)

分科会

分科会グループ討議

第56回三重県中学校長研究大会 令和元年8月22日(木)





記念講演(宇土泰寛 様)

小中一貫教育ネクスト事業が始まり

地区校長会だより

津市小学校長会

同じくらいの面積だそうです。 一同じくらいの面積だそうです。 同じくらいの面積だそうです。 同じくらいの面積だそうです。 同じくらいの面積だそうです。 同じくらいの面積だそうです。 同じくらいの面積だそうです。

学力の向上・学校生活の充実・豊か れぞれの学校が、地域と連携しなが 学校を含めて、五十校あります。そ 成果を得て事業は終了しましたが、 ら特色ある学校経営を行っています。 を実施するため、平成三十年度より ら中学校への系統的・連続的な教育 な人間性や社会性の育成・小学校か た。平成二十九年度末には、一定の 課題解決に向けて取り組んできまし 教育など)を開催し、各中学校区の 上・生徒指導・特別支援教育・人権 業を行ってきました。その事業の中 う考えのもと、小中一貫教育推進事 学校区全体で子どもを育てる」とい 津市では、平成二十六年度から「中 小学校は、義務教育学校と附属小 連絡協議会や専門部会(学力向

でよ、 対でと (など)ものに対して、 月に一度開催される定例の校長会本年度で二年目を迎えます。

考にしています。 学校を運営する上で参 見交流をし、学校を運営する上で参 現告・協議となります。最後の情報 報告・協議となります。最後の情報 報告・協議となります。最後の情報

満り見直しを検討しています。 総の見直しを検討しています。 について、老朽化している学校 ました。また、津市校長会の会員が ました。また、津市校長会の会員が ました。また、津市校長会の会員が ました。また、津市校長会の会員が ました。また、津市校長会の会員が ました。また、津市の校長会では、留守番電話の を表の、組織力の強化を目指し、組 なため、組織力の強化を目指し、組



熊野市・南牟婁郡中学校長会

「紀南の教育発展のために_

多くの観光客が訪れています。 とに多彩な表情を見せる雄大な 道や花の窟神社・熊野大花火大会 道や花の窟神社・熊野大花火大会 がれる土地です。熊野古道伊勢 など古くからの歴史と文化が受け など古くからの歴史と文化が受け がれる土地です。熊野古道伊勢 でとに多彩な表情を見せる雄大な

校も三校あります。 根南中校長会は、熊野市・南牟 とない学校が過半数で、小中併設 は横校が多く、生徒数が百人に満 がない学校が過半数で、小中併設 をない学校が過半数で、小中併設

本会は、会員一致協力して、中本会は、会員一致協力して、中準の向上を図ることを目的としており、三市町をまわって月一回定おり、三市町をまわって月一回定路指導・生徒指導・研修の各部準路指導・生徒指導・研修の各部では、会員一致協力して、中本会は、会員一致協力して、中本会は、会員一致協力して、中

や報告を行っています。 お指導部からの報告の他、研修部路指導部からの報告の他、研修部表者会・中体連・生徒指導部・進

の取組や教育課題についてざっくまた、自由な雰囲気の中で各校

校経営に役立っています。を行ったりしており、自校での学ばらんに話し合ったり、情報交換

原稿募集

「校長会みえ」について、ご

意見・ご要望があればお聞か

三重県小中学校長会

囚報委員会

問い合わせください。等につきましては事務局へおています。なお、内容・字数会員の皆様の投稿をお待ちし

の充実・発展に邁進していきます。の克服に努め、今後も紀南の教育校長会としては、これらの課題



編集後記

でざいました。心よりお礼申し上げます。 しい原稿をお届けいただき、誠にありがとうしい原稿をお届けいただき、誠にありがとうにがた先生方には、公務で多忙の中、素晴らとがいた先生方には、公務で多でが、執筆を依頼させていたを発行するにあたり、執筆を依頼させていた。

まず、県内では南勢地域の方々をはじめ、 まず、県内では南勢地域の方々をはじめ、 まず、県内では南勢地域の方々をはじめ、 まず、県内では南勢地域の方々をはじめ、 まず、県内では南勢地域の方々をはじめ、 まず、県内では南勢地域の方々をはじめ、

さて、教育界においても激震が走りました。 学校における教員間の行為による報道です。 者が…と思うと、とても信じがたいことです。 者が…と思うと、とても信じがたいことです。 ドカップで『ONE TEAM』という言葉 ドカップで『ONE TEAM』という言葉 がクローズアップをされました。我々、教職 例を張って教育できる環境を示していく必 胸を張って教育できる環境を示していく必 る最高責任者として、これからもしっかり頑 る最高責任者として、これからもしっかり頑

で支援で協力をよろしくお願いいたします。校長先生方の力になれば幸いです。今後とも、既た会の報告も詳しく掲載させていただき馬大会の報告も詳しく掲載させていただき馬大会の報告も詳しく掲載させていただき馬大会の報告も詳しく掲載させていただき地域での取組や全連小秋田大会、全日中群地域での取組や全連小秋田大会、全日中群地域での取組や全連小秋田大会、全日中群地域での財産があり、